

発展 平安時代の蝦夷	学習指導要領の「内容」の〔2〕ウ「大規模の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇・貴族の政治が展開されたことを、聖徳太子の政治と大化の改新、律令国家の確立、桓武朝政を通して理解させる」に示す内容を学習指導要領に示していない内容として取り扱っており、不適切である。
この事件の影響は大きく、朝では年号を宝龜から天応に変更し、天皇の代がおりもこなわれ。	多賀城陥落の影響で天皇の代がわりがおこったとするのは断定的に過ぎて、誤解をおそれのある表現である。

発展

平安時代の蝦夷

659年の秋、唐の洛陽で皇帝高宗が日本の遣唐使と対面していました。遣唐使の後ろには男女2名の蝦夷がひかえていました。

皇帝 「これらの蝦夷の国はどこにあるのか。」

遣唐使「わが国の東北にございます。」

皇帝 「蝦夷はいくつの国に分かれているのか。」

遣唐使「三つの国におりまして、ここにいるのは一番わが朝廷に近いある国のものがございます。そして、毎年貢物をもってまいります。」

皇帝 「蝦夷の国に穀物はあるのか。」

遣唐使「穀物はなく、おもに肉を食べております。」

平安時代までの蝦夷

上の話にでてくる蝦夷という語は、古くは「エミシ」と読みました。平安時代の末ごろから「エゾ」と読むようになりました。この「エミシ」という語には強い人たちという意味あいがあり、恐れと敬意をこめた語でもありました。6世紀から7世紀前半ぐらいまでは、ヤマト王権の勢力範囲の北方にあたる、



おおよそ現在の東北地方の住民をさしている語でした。そして、大化の改新から平安時代初期までのおおよそ150年間に、蝦夷には大きな変化がございました。

ヤマト王権の武将である阿倍比羅夫が、658年から毎年約200隻の大船団を率いて日本海を北上し、いまの秋田・青森地方へ何度か大遠征をおこなったのです。そのため、ヤマト王権の勢力範囲は東北地方中央部までひろがりました。しかし、その支配に対して、蝦夷たちの抵抗は大きく、780年には朝廷の役人であった伊治磐麻呂がリーダーとなり、ヤマト王権の蝦夷



〔発展 平安時代の蝦夷〕は、「深める歴史4 平安時代の蝦夷」というテーマ学習として、該当箇所におく。

箇所番号16については、箇所番号15の修正とあわせて示す。）

深める歴史 4

平安時代の蝦夷

659年の秋、唐の洛陽で皇帝高宗が日本の遣唐使と対面していました。遣唐使の後ろには男女2名の蝦夷がひかえていました。

皇帝 「これらの蝦夷の国はどこにあるのか。」

遣唐使「わが国の東北にございます。」

皇帝 「蝦夷はいくつの国に分かれているのか。」

遣唐使「三つの国におりまして、ここにいるのは一番わが朝廷に近いある国のものがございます。そして、毎年貢物をもってまいります。」

皇帝 「蝦夷の国に穀物はあるのか。」

遣唐使「穀物はなく、おもに肉を食べております。」

◆平安時代までの蝦夷

上の話にでてくる蝦夷という語は、古くは「エミシ」と読みました。平安時代の末ごろから「エゾ」と読むようになりました。この「エミシ」という語には強い人たちという意味あいがあり、恐れと敬意をこめた語でもありました。6世紀から7世紀前半ぐらいまで



は、ヤマト王権の勢力範囲の北方にあたる、おおよそ現在の東北地方の住民をさしている語でした。そして、大化の改新から平安時代初期までのおおよそ150年間に、蝦夷には大きな変化がございました。

ヤマト王権の武将である阿倍比羅夫が、658年から毎年約200隻の大船団を率いて日本海を北上し、いまの秋田・青森地方へ何度か大遠征をおこなったのです。そのため、ヤマト王権の勢力範囲は東北地方中央部までひろがりました。しかし、その支配に対して、蝦夷たちの抵抗は大きく、780年には朝廷の役人であった伊治磐麻呂がリーダーとなり、ヤマト王権の蝦夷



皇帝「蝦夷の国に穀物はあるのか。」
遣唐使「穀物はなく、おもに肉を食べて
おります。」

平安時代までの蝦夷

上の話にでてくる蝦夷という語は、古くは「エミシ」と読みました。平安時代の末ごろから「エゾ」と読むようになりました。この「エミシ」という語には強い人たちという意味あいがあり、恐れと敬意をこめた語でもありました。6世紀から7世紀前半ぐらいまでは、ヤマト王権の勢力範囲の北方にあたる、

初期までのおよそ150年間に、蝦夷には大きな変化が occurred しました。

ヤマト王権の武将である阿倍比羅夫が、658年から毎年約200隻の大船団を率いて日本海を北上し、いまの秋田・青森地方へ何度か大遠征をおこなったのです。そのため、ヤマト王権の勢力範囲は東北地方中央部までひろがりました。しかし、その支配に対して、蝦夷たちの抵抗は大きく、780年には朝廷の役人であった伊治磐麻呂がリーダーとなり、ヤマト王権の蝦夷



多賀城復元模型（東北歴史博物館蔵）
おはいまの政府あつと。発掘調査により政府の中央部は東西約100m、南北約120mの規模であったことがわかりました。



皇帝「蝦夷の国に穀物はあるのか。」
遣唐使「穀物はなく、おもに肉を食べて
おります。」

◆平安時代までの蝦夷

上の話にでてくる蝦夷という語は、古くは「エミシ」と読みました。平安時代の末ごろから「エゾ」と読むようになりました。この「エミシ」という語には強い人たちという意味あいがあり、恐れと敬意をこめた語でもありました。6世紀から7世紀前半ぐらいまで

語でした。そして、大化の改新から平安時代初期までのおよそ150年間に、蝦夷には大きな変化が occurred しました。

ヤマト王権の武将である阿倍比羅夫が、658年から毎年約200隻の大船団を率いて日本海を北上し、いまの秋田・青森地方へ何度か大遠征をおこなったのです。そのため、ヤマト王権の勢力範囲は東北地方中央部までひろがりました。しかし、その支配に対して、蝦夷たちの抵抗は大きく、780年には朝廷の役人であった伊治磐麻呂がリーダーとなり、ヤマト王権の蝦夷



多賀城復元模型（東北歴史博物館蔵）
おはいまの政府あつと。発掘調査により政府の中央部は東西約100m、南北約120mの規模であったことがわかりました。





坂上田村麻呂軍と蝦夷の戦い (『清水寺縁起絵巻』、室町時代後期の作。東京国立博物館蔵)



阿曇流為と母礼の墓 (京都市・清水寺)
『聖路王』の巻 (淡路県・熊鷹神社蔵)



夷支配の中心であった多賀城(宮城県多賀城市)を襲って、全焼させました。この事件の影響は大きく、都では年号を宝亀から天応に変更し、天皇の代がわりもおこなわれ、桓武天皇が即位しました。

こののちも朝廷軍はたびたび蝦夷の地に侵入しましたが、789年には5万数千の朝廷軍を蝦夷の阿曇流為はたくみな戦術で打ち破りました。また、793年には10万の大軍を追い返しました。そして801年、征夷大將軍 坂上



中尊寺金堂 (若手衆・平泉町)

田村麻呂率いる4万の政府軍と対峙しました。しかし翌年、阿曇流為は母礼と兵を連れて降伏しました。2人は田村麻呂の助命嘆願にもかかわらず、河内国(大阪)で斬首されました。阿曇流為はその後、「聖路王」「鬼」として東北地方を中心に伝説化しています。

朝廷は新たな支配地域に移民をおくりこむいっぽう、北は常陸(茨城県)から南は日向(宮崎県)の各地に蝦夷を強制移住させました。何回かの反乱をへて朝廷の支配がすすんでいきました。平安時代の後期には出羽国を中心に清原氏が勢力をひろげました。しかし、内部分裂から1087年にほろび、一族からでた清原清衡が摂関家との関係を深めて、この地を支配し、父の姓である「藤原」を名のようにになりました。藤原清衡は、平泉を本拠とし、源 頼朝にほろぼされるまで、藤原3代の栄華がはじまったのです。



坂上田村麻呂軍と蝦夷の戦い (『清水寺縁起絵巻』、室町時代後期の作。東京国立博物館蔵)



阿曇流為と母礼の墓 (京都市・清水寺)
『聖路王』の巻 (淡路県・熊鷹神社蔵)



麻呂がリーダーとなり、ヤマト王権の蝦夷支配の中心であった多賀城(宮城県多賀城市)を襲って、全焼させました。

こののちも朝廷軍はたびたび蝦夷の地に侵入しましたが、789年には5万数千の朝廷軍を蝦夷の阿曇流為はたくみな戦術で打ち破りました。また、793年には10万の大軍を追い返しました。そして801年、征夷大將軍 坂上田村麻呂率いる4万の政府軍と対峙しまし



中尊寺金堂 (若手衆・平泉町)

た。しかし翌年、阿曇流為は母礼と兵を連れて降伏しました。2人は田村麻呂の助命嘆願にもかかわらず、河内国(大阪)で斬首されました。阿曇流為はその後、「聖路王」「鬼」として東北地方を中心に伝説化していきます。

朝廷は新たな支配地域に移民をおくりこむいっぽう、北は常陸(茨城県)から南は日向(宮崎県)の各地に蝦夷を強制移住させました。何回かの反乱をへて朝廷の支配がすすんでいきました。平安時代の後期には出羽国を中心に清原氏が勢力をひろげました。しかし、内部分裂から1087年にほろび、一族からでた清原清衡が摂関家との関係を深めて、この地を支配し、父の姓である「藤原」を名のようにになりました。藤原清衡は、平泉を本拠とし、源 頼朝にほろぼされるまで、藤原3代の栄華がはじまったのです。